



第13回エピジェネティクス研究会年会に参加して

～年会に招待講演者として参加された Erb 博士よりコメントをいただきました～



**Michael A. Erb, Ph.D.**  
**Scripps Fellow, Department of Chemistry**

I wanted to write you a quick note expressing my thanks to the Japanese Society for Epigenetics and Active Motif for a wonderful visit to Japan. I had a most enjoyable time sharing our science with your society and hearing about the great work being done by the Japanese epigenetics community. I am pleased to report that we have some nascent collaborations developing with colleagues that I met at the meeting, and I suspect these will become the foundation for exciting new lines of investigation in our group. I was thrilled to see how well-represented chemical biology is in the Japanese Society for Epigenetics and how easy it was to meet like-minded colleagues.

Overall, this was a very fruitful and productive meeting for me, so I am most grateful for the invitation from Dr. Koseki and Dr. Yonezawa to make the trip. I cannot forget to also thank Dr. Umehara for hosting me at RIKEN, Dr. Ushijima and Dr. Hattori for hosting me at the National Cancer Center, and Dr. Saya for the invitation to speak at Keio University. Moreover, I was very fortunate to meet Dr. Yokoyama and Dr. Okada, whose work was extremely influential in our investigations of ENL YEATS pathobiology. I look forward to the next time I have an opportunity to visit colleagues in Japan and hope that our new friends will be able to visit the Erb Group soon!



懇親会にて（左：年会長の古関先生、右：増井先生）



## 第4代 代表幹事退任のご挨拶



理化学研究所 主任研究員

眞貝 洋一

2019年5月の年会をもって、3年間の任期を終え、代表幹事を退任しました。至らない点多々あったかとは思いますが、ご支援を頂きました会員の皆様に深くお礼申し上げます。この間、中尾副代表幹事、副島庶務委員長、中島広報委員長と「日本のエピジェネティクス研究は如何にすれば発展するか、本研究会会員のメリットになることは何か？」を考えながら、会の

運営を進めて参りました。

2017年5月に開催した第11回年会では年会長を務め、「エピゲノムはどこまで操れるようになったか」と題して、これまで積み重ねて来たエピジェネティクス制御の分子レベルでの理解とそれに伴う技術革新により、我々人類はどこまでエピゲノムを人為的にコントロールできるようになったか、それをどれほど応用に役立てられる様になったか、皆さんと現状の理解を共有し将来展望に関して議論する場を持ちました。もちろん、まだまだエピジェネティクス制御機構の理解は不十分ですし、エピゲノムを操作する技術もこれからの課題ですが、あれからさらに2年がたち、先日開催された第13回年会（古関明彦年会長）では、エピゲノムを操作するあらたな技術がさらに生まれてきていることを実感する場でもありました。ますます、社会とのつながり、社会貢献といった観点からの研究活動が広がってきていることを感じます。

国際的な観点から、昨今、日本の科学力の低下が叫ばれています。中国で隔年開催されているCold Spring Harbor Asiaの「Chromatin, Epigenetics & Transcription」ミーティングに参加された方は皆様感じられることと思いますが、中国の研究コミュニティのパワーのすごさ、昨今の研究論文の質の高さを見ると、日本のエピジェネティクス研究もどれほど国際的にオリジナリティーや優位性を有しているのか、とても危機感を持ちます。時差もほとんどないすぐお隣の中国で、あれほど最先端の研究発表がなされるミーティングにほとんど日本人研究者が参加しないのは、少し残念なことです。日本の中だけで閉じているのではいけないという視点から、第13回年会では、海外からの招待講演者を4名招聘して、初めて口頭発表の言語をすべて英語にして開催したのは意味のある試みだったと思いました。また、本研究会の支援をいただき2017年11月にパリで開催した日仏エピジェネティクス会議も、本研究会のメンバーの研究をフランス等の欧州の研究者に知ってもらう良い機会になりました。

代表幹事の任期中に、これからの本研究会の在り方、年会の開催方法に関して、検討したいと提案致しましたが、結局、新たに就任いただいた中尾代表幹事の次期執行部に問題を託す形となってしまいました。これからの本研究会を牽引する若手会員の方にもご意見をいただきながら、今後の在り方に関して皆さんで考えてゆきたいと思います。本研究会のますますの発展と、何よりも会員のプラスになる研究会であることを考えて、今後とも皆様よろしくお願い致します。



## 第5代 代表幹事就任のご挨拶



熊本大学発生医学研究所 教授

中尾 光善

皆様におかれましては、益々のご健勝のことと拝察申し上げます。この度、日本エピジェネティクス研究会の代表幹事を務めさせていただくことになりました。若輩浅学の身でございますが、何卒、よろしくご挨拶申し上げます。

日本エピジェネティクス研究会は、研究者の学術的・人的な交流を促進して、我が国のエピジェネティクス研究を推進するために2006年に発足し、まもなく15周年を迎えようとしています。国際レベルの先端研究、若手の育成とプロモーション、そして社会と産業への貢献に役割を果たすことを目指しております。

エピジェネティクスの研究分野では、生物種を問わず、生命現象に関わる全てが対象になります。発生、再生、遺伝、疾患、老化などの高次生命現象の根幹の解明に挑戦することができます。今、最も面白い研究と言えるでしょう。何よりも未知の魅力があります。分子レベルで、エピゲノム、クロマチン、RNA、転写、細胞核などの観点から、生命現象について理解を深め、生命科学と科学技術を前進させることができます。毎年度の年会では、幅広い参加者が一堂に会して、発表と議論を行うという基本のスタイルを継承しています。サイエンティフィックな広さと深さを実感し、お互いに顔の見える研究会の良さを活かして参りましょう。

また、日本エピジェネティクス研究会奨励賞を設置して、若手の登龍門に位置づけています。若手研究者の活動を最大限に支援しますので、本研究会をうまく活用いただければ幸いです。学生およびビギナーの参画促進と交流によって裾野を広げて、新鮮なアイデアが生まれることを大いに期待しております。

さらに、エピジェネティクス研究は、各種のオミクス技術の進歩によって、エピゲノムやRNA・タンパク質が網羅的に解析可能になり、その結果、データベースの構築、創薬・産業や異分野への応用など、益々拡大中にあります。これからも急展開していくことでしょう。こうした学術のダイナミズムを共有し、苦労の中にも楽しむことができます。本研究会では、新しい知見や成果とともに、重要なポイントや新しいコンセプトを社会・産業に分かりやすく還元して参ります。このため、一般の方々および産業界のご理解とご支援をお願いいたします。

例えば、『生物種の保存と進化は【ゲノムの編集】、個体発生と環境適応は【エピゲノムの編集】』とは、ひとつの考え方です。学問の多様性、研究者の個性や好奇心を大切にしながら、本研究会が新しい出会いの場になりますよう、皆様のアクティブなご参画とご協力を心よりお願い申し上げます。



**情報を求めています！！**

研究員・ポストドク募集および他の研究会のお知らせなど、ニュースレターを利用して公開してみませんか。年会に関するご意見・ご感想もよろしくお願いたします。お近くの広報委員に気軽に e-mail ください。

(代表) 中山潤一 (jnakayam@nibb.ac.jp)  
佐渡敬 (tsado@nara.kindai.ac.jp)  
木下哲 (tkinoshi@yokohama-cu.ac.jp)  
大川恭行 (yohkawa@bioreg.kyushu-u.ac.jp)  
近藤豊 (ykondo@med.nagoya-u.ac.jp)

**日本エピジェネティクス研究会事務局**

佐賀大学医学部 分子生命科学講座  
分子遺伝学・エピジェネティクス分野内  
庶務担当幹事：副島英伸  
担当：八木ひとみ

住所：〒849-8501 佐賀県佐賀市鍋島5-1-1  
TEL: 0952-34-2262  
E-mail: jse-jimukyoku@ml.cc.sags-u.ac.jp